

書式の原則

『音楽学』編集委員会では第47巻1号（2001年度刊行）より、書式について統一をはかることにしました。学術論文の書式には言語や分野によって様々な方式があり、絶対的な基準が存在するわけではありませんが、一つの学術誌のなかでは、書式の統一をはかる必要があります。執筆者は出来る限りこの「書式の原則」に従って投稿してください。

改訂に際して、書評の基本構成、文字等の表記に関する説明を加筆するとともに、引用文献等の例を増やしました（2017年3月）。

以下、□は全角スペース、_は半角スペースを表す。
2017□*Journal of the Musicological Society of Japan*□は、実際には
2017 *Journal of the Musicological Society of Japan* と入力することを示す。

1. 投稿論文の基本構成（「研究と報告」もこれに準じる）

- 日本語による投稿論文の基本構成は以下の通り（*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可）。

和文タイトル *——副題——*（副題を2倍ダッシュで囲む）
欧文タイトル *:_副題*
執筆者姓名
ローマ字表記による執筆者姓名（姓名の順。姓はすべて大文字）
本文
注
引用文献
参照楽譜
参照音源

- 欧文による投稿論文の場合は、欧文タイトル、和文タイトルの順とする。それ以外は日本語による投稿論文の基本構成と同じ。
- 論文の原稿には、ページ下中央にページ数を記載する。
- 和文要旨と欧文要旨は、別紙（別ファイル）とし、以下を記す。
【別紙1】和文タイトル・執筆者姓名・和文要旨
【別紙2】欧文タイトル・ローマ字表記による執筆者姓名（姓名の順。姓はすべて大文字）・欧文要旨

2. 書評の基本構成（「紹介」もこれに準じる）

- 書評の基本構成は以下の通り（*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可）。

書誌データ
本文
参考文献
執筆者姓名（右寄せ・ゴシック体）

・書誌データ

著者名または編者名（名前の後に日本語で「著」「編」等を記す）（改行）

書名（和書の場合は『』の中に入れ、洋書の場合はイタリックにする。和書の副題を表す2倍ダッシュは副題の前のみとする）（改行）

（出版地：出版社，出版年月日，頁数，価格，ISBN）

出版地の後にコロンを入れる（和書は全角，洋書は半角）

出版地（都市名）が複数ある場合は主要なものを記す。

洋書は出版年のみを記載する。

頁数は半角を用い，対象本の記載に準じて記す。CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/books/>) の記載が参考となる。

例1（和書） 277+xvi頁

例2（和書） v+370頁

例3（洋書） xx+_246_pages

例4（洋書） xxxiii+_583_Seiten

価格は和書の場合には「税抜き価格+税」とする。

例5 ¥3,000+税

洋書の場合は価格のみを記す。

例6 £70

例7 \$120.00

・和書の書誌データ記載例

塚田健一著

『アフリカ音楽学の挑戦——伝統と変容の音楽民族誌』

（京都：世界思想社，2014年2月28日，図版4+x+408頁，¥5,800+税，ISBN978-4-7907-1617-4）

周東美材著

『童謡の近代——メディアの変容と子ども文化』（岩波現代全書 076）

（東京：岩波書店，2015年10月21日，viii+277頁，¥2,500+税，ISBN978-4-00-029176-7）

・洋書の書誌データ記載例

Suzel Ana Reily, Katherine Brucher 編

Brass Bands of the World: Militarism, Colonial Legacies, and Local Music Making

(Surrey; Burlington: Ashgate, 2013, xx+_246_pages, £95.00, ISBN978-1-4094-4422-0)

・原稿には，ページ下中央にページ数を記載する。

3. 文字等の表記

・文献の引用・固有名詞などの特殊な場合をのぞき，現代仮名遣いと常用漢字を使用する。

・人名は初出時にフルネームで記し，原綴と生没年を併記する（「書評」「紹介」はこの限りではない）。

例1 フランシス・プーランク_Francis Poulenc (1899~1963) は…

- 外国語のカタカナ書きは、論文中で統一されている限り、特殊な表記も差し支えない。
- 数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし慣用語、固有名詞、度量的意味の薄いものには漢数字を用いる。和文の中では、アラビア数字は、1桁は全角、2桁以上は半角を用いる。また、文献表や文献引用箇所を示すページ数については半角を用いる。
- 同じ語の表記は、原則として統一する。例えば、以下のような語は表記の混在が起りやすいので、注意が必要。「～のなかで／～の中で」「～のとおり／～の通り」「できる／出来る」「わかる／分かる」「たしかに／確かに」等。
- 各種記号の使用法は、最終頁に示した表を参照のこと。
- ピリオドの後には半角スペースを入れる。
 - 例2 J. S. バッハ
 - 例3 ピアノ協奏曲第21番ハ長調 K. 467

4. 本文における引用文献・参照資料の提示方法

- 本文中で文献を引用または参照する場合は、言及した直後に、著者姓、発行年、参照ページ等の書誌情報を丸括弧でくくり、本文に挿入する(例1)。著者姓と発行年の間は半角スペース、発行年とページ数の間は半角:と半角スペースとする。丸括弧は、言及文献の和洋を問わず全角で入力する。

例1 (Dahlhaus_1983:_277)
(末吉_2000:_24)

- 文中に著者姓があらわれる場合には、丸括弧内で再録(例2 a)せずに、例2 bのように記す。
 - 例2 a 柴田(柴田_1978:_29-30)、小塩(小塩_1992:_86-87)に見られるように、
 - 例2 b 柴田(1978:_29-30)、小塩(1992:_86-87)に見られるように、
- 複数巻からなる文献から引用箇所を示す場合、例3のように、巻号の後にコロンを挿入し、ページ番号を示す。
 - 例3 (Kusnierek_1992,_3:_125)
(勝田_1982,_2:_963)

- 参照文献として巻号そのものを挙げる場合には、例4のように、「vol.」あるいは「巻」等を挿入して、ページ数を示す場合との混同をさける。

例4 (Pasler_1995,_vol._2)
(後藤_1991,_第4巻)

- 参照ページが複数巻にわたる場合には、例5のように、巻と巻をセミコロンで分ける。

例5 (Pasler_1995,_2:_26,_35;_3:_50-53)
(角倉_1997,_1:_141;_4:_330,_450)

- 頻繁に引用する文献を略号で示すなどの工夫は、慣例にしたがって適宜行ってよい。その際には、「引用文献」の冒頭に「文献略号一覧」を付す。

5. 本文における引用

- 短い引用は鍵括弧を使う。
- 長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは1行空けて、全角2文字下げる。

6. 注の付け方

- ・ 投稿時には後注方式で執筆する（本誌掲載のための組版の時点で、音楽之友社編集部において脚注方式に変換する）。
- ・ 注記番号にはアラビア数字を用い、番号のみを当該箇所の上肩上に記す（組版の時点で所定の方式に変換する）。

例1 The means by which the traditional Western composers have attempted to communicate with their audience have been discussed at length by Eduard Hanslick,² Heinrich Schenker,³ Suzanne Langer,⁴ and Leonard Meyer,⁵ to name but a few.

例2 「音場は、温度などの環境変化によって常に変動し、また騒音信号も常に定常的とは限らない¹⁶。」

- ・ 注で書誌情報を詳しく記述する方式は避け、参照した文献の詳しい書誌情報は、論文の最後に「引用文献」としてまとめる。
- ・ 注のなかで書誌情報に言及する必要がある場合は、本文と同様に丸括弧方式で言及する。

7. 引用文献・参考文献・参照資料の書式

- ・ 日本語文献（資料）は著者姓の五十音順、欧文文献（資料）は著者姓のアルファベット順に、それぞれ配列する。
- ・ インターネットを通じて文献等を引用・参照した場合には、その情報を明示する。

(1) 日本語文献

単行書

〈基本例〉 著（編）者名□刊行年□『書名』（叢書情報等）□刊行地：刊行所〔収録情報等〕

例1 林謙三□1964□『正倉院楽器の研究』□東京：風間書店

例2 今谷和徳，井上さつき□2010□『フランス音楽史』□東京：春秋社

例3 秀松軒（編）□元禄 16（1703）□『松の葉』□京都：井筒屋庄兵衛，万木治兵衛
〔復刻版□浅野健二（校注）□1959□『中世近世歌謡集』（日本古典文学大系44）341-530□東京：岩波書店〕

例4 角倉一郎，他（編）□1986□『音楽と音楽学——服部幸三先生還暦記念論文集』
東京：音楽之友社

例5 フェルド，スティーブン□1988□『鳥になった少年——カルリ社会における音・神話・象徴』（テオリア叢書）□山口修，他（訳）□東京：平凡社

例6 ミドルトン，リチャード□2011□「序章——音楽研究と文化の思想」『音楽のカルチュラル・スタディーズ』□マーティン・クレントン，トレヴァー・ハーバート，リチャード・ミドルトン（編著）1-18□若尾裕，ト田隆嗣，田中慎一郎，原真理子，三宅博子（訳）□東京：アルテスパブリッシング

雑誌

- ・近年定期刊行物が増えているため、発行者名を付すこととする。

(基本例) 著者名□刊行年□「論文名」□発行者名『雑誌名／紀要名』巻号: _ページ

例7 林光□1991□「創造と日常のあいだ——バッハ・モーツァルト・宮澤賢治」□音楽教育の会『音楽教育』325: _7-20

例8 相沢陸奥男□1954□「音楽学の成立並に各分野の関連に就て」『音楽学』第1巻1号: _7-20

- ・本誌『音楽学』や発行者名が明白な場合については、発行者名（日本音楽学会など）を省いてよい。

例9 角倉一郎□2000□「20世紀のバッハ研究」『東京藝術大学音楽学部紀要』第26集: _47-65

新聞等

(基本例) 著者名□刊行年□「記事タイトル」『新聞名 必要に応じて地域版名』掲載日付と朝夕刊の別や版: _ページ

例10 谷村晃□1961□「ヒュッシュの枯淡な味」『朝日新聞□大阪本社版』1961年12月5日夕刊: _5

- ・インターネットを通じて定期刊行物を引用・参照した場合

例11 著者不明□2008□「慶応150年式典に天皇，皇后両陛下」『朝日新聞』2008年11月9日朝刊: _社会面. (『聞蔵Ⅱビジュアル』□<http://database.asahi.com/>□2017年2月7日閲覧)

(2) 欧文文献

- ・文献のタイトル表記は以下の原則に従って記述する。

英語：タイトルの最初の文字，および全ての名詞，動詞，形容詞，副詞の頭文字は大文字とし，その他は小文字とする。

仏語：タイトルの最初の文字および固有名詞の頭文字は大文字とし，その他は全て小文字とする。

独語：タイトルの最初の文字，および全ての名詞の頭文字を大文字にする。

その他の言語：ローマ字に転写したアラビア語，ロシア語などは当該言語の習慣に従う。

単行書

(基本例) 著者姓, _名. _刊行年. _書名. _刊行地: _刊行所. [必要に応じて翻訳書情報等]

例12 Small, _Christopher. _1998. _*Musicking: The Meanings of Performing and Listening.* _ Hanover, _N. _H. : University Press of New England. [スモール, クリストファー□2011□『ミュージッキング——音楽は「行為」である』□野澤豊一, 西島千尋(訳) □東京: 水声社]

例13 Blum, Stephen, Philip V. Bohlman, and Daniel M. Neuman, eds. 1993. *Ethnomusicology and Modern Music History*. Urbana: University of Illinois.

雑誌等

〈基本例〉 著者姓, 名. 刊行年. “論文名,” 雑誌・紀要名. 巻号: 論文全体のページ.

例14 Cummings, Paul. 2016. “The Pivotal Role of Hans Richter in the London Wagner Festival of 1877,” *Musical Quarterly*, 98, no. 4: 395-447.

例15 Shelemay, Kay Kaufman. 1980. “Historical Ethnomusicology: Reconstructing Falasha Liturgical History,” *Ethnomusicology*, 24, no. 1: 233-258.

・欧文文献の表記方法については、下記の手引き書等も必要に応じて参考にしてください。

ケイト・L・トゥラビアン 2012 『シカゴ・スタイル——研究論文執筆マニュアル』 沼口隆, 沼口好雄 (訳) 東京: 慶應義塾大学出版会

Kate L. Turabian. 2007. *A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers*. 8th edition. Chicago: The University of Chicago Press.

The University of Chicago Press Staff. 2010. *The Chicago Manual of Style*. 16th edition, Chicago: The University of Chicago Press.

・英語以外の文献表記については、上記の手引き書を参考にして、適切な方法を執筆者が選択してください。

(3) 視聴覚資料

・下記の例を参考にして、CD・レコード名、曲名、演奏者名、レーベル名、CD・レコード番号等を表示する。DVD等もこれに準じる。

例16 『雅楽大系 器楽編』 □田辺尚雄, 芝祐泰 (監修解説) □VICTOR, SJ-3002

例17a Brahms, Johannes. *Piano Concerto No. 2 in B flat major, Op. 83*. Vladimir Ashkenazy, Zubin Mehta, The London Symphony Orchestra. Decca, CS_6539.

あるいは、

例17b *Johannes Brahms, Piano Concerto No. 2 in B flat major, Op. 83*. Vladimir Ashkenazy, Zubin Mehta, The London Symphony Orchestra. Decca, CS_6539.

例18 『インスブルックよ、さらば』 □ロンドン中世アンサンブル, ポリドール, POCL-3168

例19 『ジョルジュ・ドン——日本最後の「ボレロ」』 □モーリス・ベジャール (構成), ジョルジュ・ドン他 (舞踊) □新書館, DD01-1001

・インターネットを通じて録音や録画を視聴した場合

例20 林広守 (作曲) □《君が代》 □辻順治 (指揮), 陸軍戸山学校軍楽隊 □ビクター, 52084_1932-01 (『国立国会図書館デジタルコレクション 歴史的音源』 □<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/3579872> □2016年3月31日視聴)

(4) 楽譜

- ・下記の例を参考にして、作曲者名、曲名、編者・校訂者名、刊行年、曲（集）名等を表示する。

例21 山田松黒（編） □安永 8（1779） □『箏曲大意抄』全6冊 □名古屋：尾張書肆

例22 Verdi, Giuseppe. Rigoletto: Melodrama in Three Acts by Francesco Maria Piave. Martin Chusid ed. The Works of Giuseppe Verdi. ser. 1, Operas. Chicago: University of Chicago Press, Milan: G. Ricordi, 1982.

(5) ウェブサイト

- ・下記の例を参考にして、著者、発表年、ページ名、ウェブサイト全体の名称、アドレス、閲覧年月日等を表示する。

例23 東京大学附属図書館 □ [2003] □ 「博覧会関係資料（常設展2003年4月～6月）」 □ http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/2003_04-06/ □（2015年12月31日閲覧）

例24 著者・発表年不明 □ 「東洋汽船北米航路汽船発着表」（『20世紀時刻表歴史館』ウェブサイト内） □ http://www.tt-museum.jp/taiyo_0030_tyk1924.html □（2016年4月1日閲覧）

8. 引用楽譜・図版・写真等について

- ・譜例や図表、写真については、「譜例 1」「図 1」「表 1」等の番号とキャプションをつける。番号とキャプションは、譜例等の前に提示する。

例25 表 1 □ 『音楽学』の掲載数の推移（2012年度から2016年度の5年間）

	62 卷 (2016)	61 卷 (2015)	60 卷 (2014)	59 卷 (2013)	58 卷 (2012)
論文	5	3	10	5	5
研究と報告	0	0	0	1	0
書評	14	10	15	11	12
紹介	3	1	1	0	0

- ・著作権表示が必要な楽譜等を使用する場合は、必ず該当箇所に明示する。著作権表示が必要か否かの判断や、それに伴う出版社や著作権者とのあいだで必要な手続き等は、執筆者本人が行う。その際、『音楽学』が学術刊行物であることと、紙媒体の冊子体で出版されるとともに、出版後1年でウェブ上でも公開されることを伝えた上で、許諾を得る。出版社等から著作権使用料の要求があった場合には、執筆者の自己負担とする。

9. 各種記号の使用法

名称	記号	用法	例	備考
中黒	□・	名詞の並列	東洋・西洋	
ピリオド	□	1. 欧米単語の省略 2. 名前の省略	ed. J. S. バッハ	
傍点	あああ	特に力点を置く字句		
ダブル引用符	“ ”	欧米引用文		
角括弧またはブラケット	[]	1. 引用文への補足・修正 2. 書誌情報の補足		
丸括弧またはパーレン	()	補足的な説明		
鍵括弧	「 」	1. 和文引用文 2. 雑誌論文等の和題目 3. 強調		
二重鍵括弧	『 』	1. 「 」内での引用文 2. 和書名, 和雑誌名	『音楽学』第1巻1号	
二重山括弧	《 》	作品名	《カンタータ第82番： 我は満ち足れり Ich habe genug》(BWV 82)	
ハイフン	-	1. 欧文の単語の分かち書き 2. 欧文中, 数字で範囲を示す 3. 文献のページの範囲を示す		
二重ハイフン	=	外国語の固有名詞の分節	ジャン=ジャック	欧綴ではハイフン Jean-Jacques
波ダーク	～	和文中, 数字で範囲を示す	1770～1827	
二倍ダーク	——	1. 挿入句 2. 和書の副題を示す		全角2字分使用
リーダー	……	中略		全角2字分使用 (1字分に3点)
ルビ		ふりがな(漢字の上に)	おんがくがく へんしゅう 『音楽学』編集	